

Sabadilla サバディラ [激しくしゃみと体の奇妙な感覚]

Schoenocaulon officinale (Sch) A.Gray.

Asagraea officinalis, Helonias officinalis, Veratrum officinalis

BACK GROUND

Sabadillaは、北米南部から中南米、とくにメキシコのアンデス山脈、ベネズエラ、グアテマラにかけて原産で、単子葉綱ユリ目ユリ科のサバディラです。

学名はいろいろあり、Cevadilla, Schoenocaulon officinale, Melanthium sabadilla, Veratrum officinale, Helonias officinalis, Sabadilla officinarum, Asagraea officinalis, Sabadillmermer などと呼ばれています。

学名のSchoenocaulonは、ギリシア語のschoinos イグサ、caulos 茎に由来し、この植物がイグサに似ていることから命名されています。種小名のofficinaleは薬用のという意味です。

根の部分は、少しAllium cepaに似ています。

サバディラの種子には、いくつかのアルカロイドが含まれています。主なものには、ベラトリン、セバダイン、ベラトリジンなどが代表的です。他の成分には、タンニン、サバディラ酸、ベラトリン酸、ケリドニック酸、脂肪油、レジンなどがあります。この植物は、有毒成分をもっていて、蜂のような昆虫を寄せつけません。

FIRST PROVING

Stapf

MIND

Sabadillaタイプは、奇妙な想像の世界を考えています。自分の体の一部が、変化するような錯覚を感じることがあります。神経質で、イライラして驚きやすい面をもっています。

非常に寒がりです。外の空気に過敏になります。熱い飲物が好きです。タマネギは、好きだったり嫌ったりします。

AFFINITY

Sabadillaは、主に粘膜組織（鼻、肛門、消化管など）、神経系、涙腺、喉などに作用します。右側から左側に移るレメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、花粉症や鼻感冒の主要レメディの1つとして使用されています。

耳鼻咽喉

- アレルギー性鼻炎：多量の鼻みずが、激しくしゃみとともに出ます。鼻や口の口蓋がむずがゆくなることがあります。眼が焼けるように感じて、涙が出ます。とくに外気に対しての感受性が強く、外に出たり、眩しい光、あくびや咳で涙が出ます。暖かい部屋に入ると、改善されます（Allium cepaと逆です）。寒がりです。
- 花粉症：激しくしゃみが何度も出ます。花の匂いや新しく刈られた草の匂い、ニンニクの臭いで悪化します。果物の匂いにも過敏になります。花の匂いを考えただけでも、くしゃみが出てしまうことがあります。
- 鼻感冒：熱い蒸気を吸ったり、熱い飲物を飲んだり、温かい食事をすると改善します。そのため熱い飲物を飲むのが好きです。
- 咽頭炎、喉の痛み：喉がとても痛くなります。喉の痛みが左側から始まり、右側へ広がります（右から左の場合もあります）。温かい飲物で改善します。冷たい飲物で痛みが悪化します。喉に何かが引っかかっているような気がして、いつも飲み込む動作をします。軟口蓋がむずがゆくなり、舌でこする動作をすることがあります。ちょっとした異常でも、命に関わる重大な病気なのではないかと、心配してしまう傾向があります。
- 喘息：花粉症の時期になると起こります。

神経系

- 頭痛：破裂するような痛みが、前頭部、とくに眼の上の部分に起こります。しばしば鼻の症状を併発します。痛みは左右に移動することがあります。額に冷や汗が出ます。じっとひとつの物を見つめたり、ひとつのことを考えていると、痛みが楽になります。
 - 体感幻覚：自分の体の一部が変わった感覚を感じます。肢が捻じれたり短くなる感覚、お腹が少し張っただけで妊娠したと思ひ込む、皮膚がシワシワになったような感覚など。
 - めまい
- ### 消化器系
- 消化不良：とくに寄生虫感染に関連する場合。朝のうちに悪化する傾向があります。

MODALITY

- 外気、暖かい空気、熱、食事、飲み込むこと、温かい飲食物、包まれることなど
 - ❏ 寒さ、冷氣、冷たい飲物、匂い（とくに花や刈られた草、ニンニクなど）、真夜中前、休息中など
- 周期性：同じ時間、新月、満月

RELATIONS

- ・ Antidoted by : Camphora, Lachesis, Lycopodium, Pulsatilla, Conium
- ・ Follows well : Bryonia
- ・ Followed well by : Arsenicum album, Belladonna, Mercurius, Nux vomica
- ・ Complementary : Sepia

Sabal serrulata ノコギリヤシ [前立腺肥大、牛乳好き]

Sabal serrulata Sch.
Serenoa serrulata Hk.f.

BACK GROUND

Sabal serrulataは、北米南部原産のヤシ科シュロ属の低木ヤシです。とくにアメリカ・フロリダ州からジョージア州にかけて、沿岸の平地に密に林立するように自生しています。葉がノコギリ状にギザギザしているためにSaw palmetto、ノコギリヤシと呼ばれています。葉は、40cmから1mに広がります。高さは1～2mになりますが、最大のものでは6mに達するものもあります。



(K)

古くからアメリカ先住民の間では、ノコギリヤシを強壮剤や鎮痛剤、膀胱や尿道、前立腺の疾患の治療薬として使用していました。ノコギリヤシの小さな赤色の果実には油性物質が豊富に含まれており、この果実を食用とする北米の動物は、毛並みがよく健康であるという、古くからの言い伝えがあります。果実は10～11月に熟します。19世紀以降、ヨーロッパを中心に研究開発が進められ、1950年代には、ノコギリヤ

シが米国のUS National Formularyに治療薬として収載されていました。

その後、研究が本格化して、この植物の果実に含まれている各種成分が、前立腺肥大による排尿障害に高い効果を現すことが証明されました。「植物の導尿カテーテル」というニックネームまであります。ヨーロッパでは、すでにフランスやイタリア、ドイツ、ベルギー、ハンガリー、モナコ、イギリス、スウェーデンなどで前立腺肥大の治療薬として許可され、医薬品として販売されています。

Sabal serrulataの実に含まれている有効成分としては、精油、各種遊離脂肪酸（Palmitic acid, Palmitoleic acid, Stearic acid, Oleic acid, Caproic acid, Caprylic acid, Lauric acid, Myristic acid, Linoleic acid, Linolenic acid, Arachidic acidなど）、各種ステロール（ベータ-Sitosterol, Stigmasterol, Campesterolなど）、転化糖、脂肪酸エステル、マンニトールなどがあります。

前立腺肥大のメカニズムは次のようなものです。加齢とともに男性ホルモンの分泌が減少し、生殖能力が衰えてくると、前立腺はその能力を維持するために、男性ホルモンのテストステロン（アンドロジェンの1つ）を、血中より積極的に取り込むようになります。テストステロンが前立腺に取り込まれると、還元酵素である5 α リダクターゼが作用して、ジヒドロテストロン（DHT）という物質に変わります。DHTは、細胞質における蛋白質の精製や細胞分裂を促進する蛋白受容体に結合する結果、前立腺の腺房および間質の過形成が起こり、肥大化するというのが主な原因です。

ノコギリヤシに含まれているオクタコサノールやス